

地域の教育資源を生かした 「原っぱ教育」で次代を生き抜く 子供たちの育成を

地域の
特色ある
活動

山梨県北杜市教育委員会

1 はじめに

北杜市は山梨県北部に位置する山紫水明の地です。16年前、7つの町村が合併し、その後1つの町が合併して誕生した北杜市は人口約46,000人。2つのユネスコエコパークがあり、日本百名山に数えられる八ヶ岳、甲斐駒ヶ岳、金峰山、瑞牆山などの雄大な山々。初夏には宝石のような輝きを放ちながら舞う国蝶オオムラサキ。大地がもたらす透き通った豊かな水の恵みは、ミネラルウォーター生産量日本一。また日照時間も長く、これらの豊かな自然環境は、「住みたい田舎」ランキングにおいても常に上位にあり、都会からの移住先としても近年注目されているところです。町村合併以来16年、北杜市は「人と自然と文化が躍動する環境創造都市」を目指しています。

2 「原っぱ教育」を理念とした施策体系

北杜市では2007年に策定された「第1次北杜市総合計画」において、8つの杜づくりが提言されました。その中のひとつが「教育・文化に輝く杜づくり」です。そして、その中心となる学校教育の充実策として「原っぱ教育」が提唱されました。

その基本理念は「不屈の精神と大志を持った人材の育成」であり、地域の自然・文化・歴史などを教育の中にしっかりと位置づけていくというものです。さらに地域の「ひと・もの・こと」を活かすことを合言葉に様々な

教育活動が活発に展開されています。

令和2年度のグランドデザインにおいては、「夢を持ち 未来を切り拓く 心身ともにたくましい 北杜の子ども」を目指す子供像として、「社会を生き抜く力の育成」「郷土を愛し、未来を切り拓く人材の育成」「地域に根ざした信頼される学校づくり」を掲げています。これらを基本目標とし、各学校においては、子供たちの「生きる力」を育むため、地域に根ざした教育実践に日々取り組んでいます。

3 教育環境を活かした学力向上

学力向上については、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習過程の改善に努めるとともに、生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力の育成を目指しています。

ICT教育は、現下のコロナウイルス禍においてオンライン学習の必要性がさらに高まってきました。本市ではICT教育環境整備計画において、PCやネットワーク等の環境整備、電子黒板等を活用した授業づくりに取り組んできました。今年度末には1人1台端末の導入を受け、新しい時代の新しい学びの在り方をも視野に入れ、ICT教育研究会を中心に研究を進めています。

また、「公
営アカデ
ミー」とい
う公設塾を
開設し、地



域の教員 OB の方々の協力を得る中で、中学校区の各地区公民館等を会場に、長期休業における中学生の補習授業に取り組んでいます。一方小学校では、平日の放課後を利用した補習を学校ごとに行っています。

4 地域の様々な教育資源を活かす

本市には8つの公共図書館があり、市内9小学校、9中学校、中高一貫校の学校図書館をネットワークで結び、中央図書館である「金田一春彦記念図書館」を中心に子供たちの読書活動を進めています。

金田一図書館は、金田一春彦氏の音声資料など約2万点が寄贈され、デジタルアーカイブ事業を終えたところであり、資料のデジタル



ル化を推進しています。その他各公共図書館はそれぞれ特色ある活動で、多くの市民が利用しています。

本市の公共図書館、学校図書館は、「ほくと読書の杜プラン」を策定し、「子ども読書活動推進計画」に従って、家読（うちどく）や読み聞かせ、「言葉の学校」など、多くの地域ボランティアの協力を得る中で、学校・家庭・地域が連携し積極的に活動しています。

5 本物との触れ合いを通じた夢づくり

北杜市の「ひと・もの・こと」を活かして郷土を愛する心の育成につなげるために、子供たちが地域とふれ合う機会を支援しています。

例えば、夏休みを利用した、「小学生ふるさと探検隊事業」。これは自然・環境・科学コースと文化・歴史・施設コースに分かれ、市内小学生3～6年生を対象に実施しています。令和元年度は、市議会議場体験、北杜市考古資料館、平山郁夫シルクロード美術館での見学と化石発掘体験、市立甲陵高校 SSH 化学実験、オオムラサキセンターでの体験活動など、子供たちの興味・関心を広げ、学校

での学びをより深いものにしていく機会となっています。

また子供たちの夢や希望を育むための取組として、本市では芸術文化スポーツ振興基金を活用したスポーツ観戦やバレエ、能、狂言、コンサートなどの観劇、プロ選手を招いたスポーツ教室、芸術体験事業などが行われており、東京オリンピック・パラリンピックでは、ビーチバレー及びBMXのフランスチームの事前合宿地として、フランスチーム選手と市内小学生との交流が行われました。

6 地域に根ざし地域から広がる環境教育

北杜市清里は日本の環境教育のメッカと呼ばれ、清泉寮内の「自然ふれあいセンター」では、毎年「日本環境教育フォーラム清里ミーティング」が開催されています。全国各地から環境教育に携わる関係者が集まります。この清泉寮には「やまねミュージアム」があり、やまねの生態などの研究と合わせ展示を行っています。

北杜市は国蝶オオムラサキの生息数日本一と言われています。市内のオオムラサキセンターを拠点に、長坂中、甲陵中では、生徒たちがオオムラサキの個体数調査に40年以上にわたって取り組んでいます。

7 おわりに

これからは予測のつかない困難な時代と言われます。原っぱ教育が目指す「不屈の精神と大志を持った人材の育成」を実現するため、北杜市の教育資源を最大限に活用しながら、次代を担う子供たちを育てていきたいと思えます。



教育長
堀内 正基